夕刊
磐城新聞
十月九日發行
定價 一ヶ月金六十五錢
發行所 磐城新聞合資會社
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇八五六五五番

天氣豫報 小名濱測候所發表
今晩は北東の風雨
明日は北東の風雨 後曇

## 讀書雜感 （一）

五十嵐雄之

現代獨乙の碩學、伯林大學哲學科教授シュプランガー博士が日獨交換教授として來朝して帝大、慶大を初め各大學で講演を行つた。日獨醫學協會の斡旋で先頃東大醫學部でなした講演『醫學と道德』の中で「人間の行爲、人間の仕事は皆何等か道德的規準の用を受けなければならない從つて醫師の仕事も當然道德的に觀察されなければならないわけである『公事は私事よりも大切である、健康或は疾病といふことは單に個人の問題でなく、民族の問題、國家の問題である』といふ言葉と共に、醫師の道德は新たなる意味をもつて來た、醫師は單に個人の疾病を癒すだけでその使命が終つたものとは云はれない」云々と述べて氏の觀る醫師の新らしい使命について國民衞生その他數々の項目をあげ、そして最後に、人間の仕事として

一、生命の價値を信ずること
二、常に祖國に奉仕し得る準備と心構へをもつ事
三、自己の職務上の義務をはつきり認識して居ること

を述べて結辭としてゐる流石にナチス獨乙の學界を代表して派遣された學者の所論だけあつて高所大局より醫術及醫師を論じその使命を啓示したあたり、殊に個人主義倫理觀の歐洲學界に生れ乍ら、祖國主義の國家主義道德を唱導するあたり吾が國民道德と大いに共鳴するところのあるのを感ずる。この所論は直ちに採つて文藝の上にも或は其他の精神科學の加何なるもののの上にも移し得らるるものであらう

## 山峽

マアーコ生

たよりなき男おめでたき男よと
のゝしり續けて二とせ三とせ
疲れしためか
秋風吹く山峽
×
日曜日大きく秋をのみこんで
月曜からは働きたしと思ふ
×
職場に不滿をもちて二年の秋
×
山峽に來りて忘れし己
父と呼んで見たき心持す
梨にうづもれて働くを見れば
×
あてどなく山路山路をふみ歩き
母戀ふ氣持ふと覺ゆ
×
すゝきをぬきてくわねてみる
たよりなき己を怒つて見る日曜日

10月10日
△川中島の戰（永祿四）△日本銀行開業（明治一五）△學生のカフエー入り禁止（昭和九）△ギリシヤ廢帝の復辟成る△イタリー正式にエチオピヤとの國交斷絕を宣言（同一〇）

10月11日
△渡邊華山自殺（天保一二）△日本郵船會社創立（明治一八）△桂太郎歿（大正二）

## 車中口占

珠雲 小野務平

颱車十里截風行
窓外靑於萬畝平
耕作營々開國富
奉公誠意此中生

## 講談 悲戀 髑髏組（どくろぐみ） (15)

林杢兵衞作　金子士郎畫

蜘蛛手の網（二）

鈴鹿山の谷水を集めて。伊勢海に押出す鈴鹿川の流れを引いて。小さな水車が廻つてゐる小屋の主を甚兵衞と云ふ

もう七十に手が屆かうと云ふ老い朽た老人だが。鬼しばりの倉元丁字屋の酒六として働く盛りは我徴の强い元氣な男だつた

しかし。寄る年波は爭へず。二年前に酒六奉公から身を引いて。今ぢや餘命を此の水車小屋で送つてる

晝間でも。滅多に訪れる者がない此の幽居へ。宵闇と共に訪れた者がある

『爺や、うちかえ』

透き徹るやうな女の聲だ

老軀の疲れ休めに、一本の寢酒をやつと今終つたところだ

『ヘツペツまたおかん狸の惡戲をしやがるな。歸れよ仕樣のねえ畜生だ』

『あら、爺や、妾……幾代だよ。開けておくれ』

『ヘツヘツ何を云やがるんだい。お孃樣は暗い夜道をお步きにならねえよ』

狐狸の惡戲と見て一向に開けさうもない甚兵衞

『爺や。本當に妾だよ。開けておくれツたら……』

『えーツ！。それぢや本當にお孃樣……』

『だから早く開けておくれと云ふに……』

『不思議だなア。今頃お孃樣がどう云ふ譯で御座らしやつた知ら』

半信半疑で雨戶の心張棒を外した甚兵衞。開けるなり

『おう本當にお孃樣だ。どうしてまた今頃』

と。頓狂な聲。

『驚いたでせう。狸の惡外と思ふのも無理がないわ』

『どうも濟みましねね。でお孃樣何か殘つたことでもお始まつたんで御座りますがい？』

時が時だから心配さうな顔で迎へなければならない甚兵衞だ

『えゝ。少しばかり……』

口籠りながら幾代ば。戲に待たしてある刑部の方を見返つた

『おや、誰方かお連樣でも御座りますか。なぜこちらへお入れさつしやいませぬ さア遠慮はいりましねから、ずつと這入つておくんなせえまし』

氣易く迎へ入れる甚兵衞の態度に、幾分安堵の刑部である

『飛んだ造作をかけて濟まらぬことだ』

『何んの、さアどうぞお上り遊ばしておくんなせえまし』

そう云ひながら、甚兵衞が心得顏に並べて敷く二枚の座布團。二人が座につくを待つて、

『ときにお孃樣、お話と仰有ると……？』

と訊いた。

『それは、少し仔細あつて今詳しい話は出來ないが、爺や、此の刑部樣を、暫らく此處へ匿まつてたもらぬか、幾代が一生のお願ひとして……』

『何んだかと思へばそれ位えのこと、えーねよう御座りますとも』

『譯も云はずに濟みませぬ誰方が訪ねられても必ず知らぬと云つて……』

『もう、何も云はねえで下せえお孃樣、此の爺やはちやんと承知して居ります。確かにお預かり致しやす』

『わゝツ承知……』

思はずあげる幾代の顏。甚兵衞は屋外の氣配を注意するやうに窺つてから、聲を落して、

『此方樣のお召物の裾に血が……』

『まア、爺や！』

『だから分つて居りまする何も心配はいりましねえ』

あとに續く沈默の一と時途端、表に忍び寄るらしい人の氣配がする。

『誰だツ！』

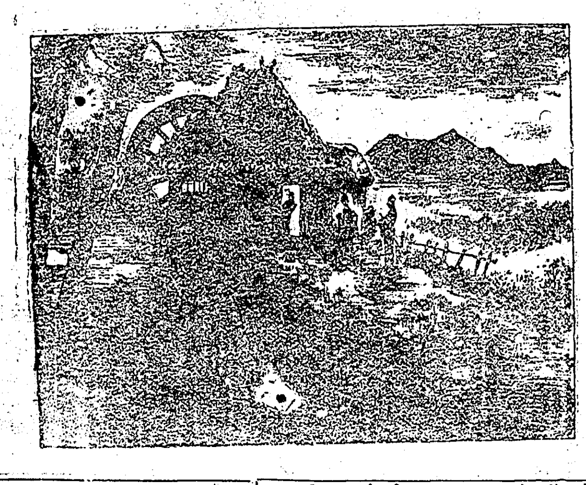
刑部が大刀を取つて片膝立てた。

甚兵衞が立つて外の闇を透し見てゐる

『誰か居たの？ 爺や……』

『さア、通り掛りの者かも知れましねが、變な奴……まア御用心なされまし』

憂ひ氣に顔を曇らせる甚兵衞。幾代の不安は一通りでない



## 月 （下）

島田忠夫

○天窓になほ月照らふ茶の間にて爐近く寄れり熱き茶が欲し
○枯れし稗挿しだるまゝの瓶が床に障子のそとの月しづみたる
○い寢がての枕にかよふ谷のおと瀨みづてらして月更くるらむ

## 本社後援 野麥社秋の短歌會

日時 來十日午前十時
場所 マルトモホール
會費 三十錢
兼題 『葉』『聲』各二首 時局に因めるもの一首

## 山崎翁を悼む （上）

島田忠夫

平に住む愚弟から、山崎與三郞翁の御逝去を知らせて呉れた。愚弟も、私がいかに驚き、かつ悲しむだらうといふことを考へつつ知らせて呉れたことと思ふ。事實私は愕き、悲しみ、歎いたばかりでなく、平市の自治、經濟、文化、宗教、美術、その他あらゆる方面に於て最も信賴し得る大人物を失つたことを痛感したのである

○

山崎翁について、私は知るところ極めて少い。しかも、その溫厚、謙讓おのづから長者の風格を備へた人柄に接したのは極めて少年月ではあるが、深く尊敬する念を抱いてゐるのである

乃ち昭和五年頃、私が一代の歌僧天田愚庵研究調査の爲め、わざわざ平に居住して沒頭せる頃、率先して私の研究を援助せられたのは山崎翁であつた

尤も、今は故人となられた長瀨庵平翁の口添へも力あつたのではあるが、爾來しばしば研究費を私に惠與せられ、また御所藏の愚庵の幅を貸與せられたものであつた

廣告

外科、內臟外科 エツキス光線科
新設……産婦人科
院長 安齊徹
醫學士 黑澤廣
入院隨意 安齊醫院
平市田町 電話四七五番

レストラン サロン
食事 喫茶 酒場を兼ねた
平田町 電三五二

酒とマツイー
おでんの榮ちやん
平市田町花ノ里 電話三三番

大和田醫院 電話一七〇番

書夜診療
外科一般 內臟外科
レントゲン科 泌尿器科
北川外科
〔血液檢査毎日〕
イツデモ入院デキマス。
平市新川町〔電四六四〕
醫學博士 北川芳夫
技師 三浦常保

ニッポン・タンサン 特約
日本水産 販賣
平製氷會社
ヒノマル凍魚
鯛 甘鯛
エビ マナ鰹
白魚 帆立貝
ワカサギ ウニ貝燒
特約店 鯛印 魚問屋
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

パーマネント
マシンの設備
非常時に備へる
銃後婦人の途
それこそ一回の御手當で六ケ月を保つパーマネント……を！
△時間の經濟と能率增進……
△非常時にふさはしい御洋髮……
△洗髮も御任意のまゝ……
◎パーマネントは歐洲大戰以來の流行 御家庭の滿足も、美容の保全から生る
平市驛前 水野化粧院
主 水野冬子
電話一五二五番 一六七八番

實用新案 第二八七四三〇號
意匠登錄 第六六一六七號
石山式
石綿ムシカマド
こんな經濟的な『かまど』は他にありません
安價な燃料で濟み、保溫力が强く堅牢で火の元絕對安全！、御使用に御便利な！石綿製のムシカマド、近代生活のお台所に是非、おすゝめ致したい新製品で御座います。

和洋銅物 金物問屋
平市五丁目
㊇ 釜屋商店

耳鼻咽喉科專門
醫學士 鈴木正男
平市田町（電話五八番）
磐田女學校前

齒科口腔外科
「入院のお需めに應ず」
（看護婦及び見習看護婦募集）
日本齒科 醫學士 鈴木喜政
鈴木醫院
內郷村高坂 磐炭病院前

上原家政婦會
平市紺屋町一一
會主産婆 上原通子
電話二二番
産婆看護婦資格有者ニシテ最モ熟練ナル者ヲ一般家政婦トシテ派出致シマス

Refinetex リファインテックス
皇軍の往く所 敵無し……
銃後の護は毅然たる服裝より
强靱・廉價・
殊に非常時向秋冬品豊富
大崎屋洋服店
平市銀座 電96

和洋 建具 家具 テーブル 椅子
其他裝飾品一般……
御用命は迅速に御努め致します。
諸官衙 各學校 御用達
製作販賣
平市五丁目四
片寄製作店
片寄小彌太
電話四八四番
十五、六歲以上の見習徒弟募集
御希望の方は至急申込下さい。

カメラ材料
藥品百貨
西村屋藥局
平電話3番

# 再起の雄圖空しく 青野少尉右腕を切斷
## 殘念がる入山全從業員

十字砲火の上海戰線に獅子奮迅の活躍中名譽の戰傷を負ふた入山炭鑛人事係青野郁夫少尉は其後○○兵站病院に收容手當てを受けてゐるが傷は右腕上膊部の複雜骨折で遂に切斷の已む無きに至り此程その大手術を行つたとの事で再び戰線に送る日を樂しみに只管回癒を祈つてゐた吉田所長以下入山全從業員を擧げて落膽の歎聲を洩らしてゐる。次は目下在郷中の令閨から中村人事係長への近信で漫ろに當時の激戰振りや夫君の戰傷に當面する武人の妻としての心構へなどを偲ぶ事が出來る

（前略）去る二十一日のラヂオ以外負傷の詳報を知る何らの手がかり無く家內一同本人よりの手紙を一日千秋の思ひにて待つて居ました處，本日○○兵站病院よりの手紙に接し傷の模樣も知り得た始末です。看護婦でも書いたらしく右腕上部に傷を受けメチャ／＼に骨折の上傷が大きい爲其まゝにては生命に拘はるとの事にて右腕を上膊部より切斷非常に不便を感じて居るとの事。今は兵站病院にて白衣の姿となり內地還送の日を待ち居る由にて（中略）我が石井部隊は上海にても稀なる激戰地に廻つたらしく○○餘名の將校中○分の○は戰死傷致し○隊等も○分の○位に減じ○○○○○○○○○○○○○の田上部隊と合併したとか聞いて居ります，此樣な有樣なれば主人の負傷は當然の事。既に皇軍に捧げましたる體、戰死せぬのが寧しろ不思議な位でございます，併し乍ら多くの部下を殺し傷け自分も亦病床に横たはる主人の胸中を思ふ時。知らず知らず不覺の淚を何とも致し方ございません。（後略）

# あゝ遂に勝てり
## 中山常銀支店長宛 大森氏の陣中通信

市內常陽銀行平支店員步兵少尉大森淑男氏＝水戶市天王町出身＝は目下皇軍の第一線に活躍してゐるが保定占領の状況について最近中山支店長宛詳細な便りを寄せて來た

これによると○○隊に加はり保定目指して進擊した同氏は○○隊長古泉物哉大尉も戰死した上○○隊長も戰傷を負つたので自ら○○隊長となつて奮戰、遂に保定城頭高く日章旗を掲げたと云ふ壯烈極まる陣中通信である

# 大橋義光伍長
## 戰死公報入る

入山炭礦從業員大橋義光伍長（栃木縣上都賀郡小來村出身）は過般來名譽の戰死を傳へられてゐたが昨八日入山坑務所にその旨正式通知があつた

# 入山發電所
## 愈よ近く竣功

入山炭礦の火力發電所は昨年十月七日起工以來諸事順調に進捗し最近機械類の裝置も略ぼ完成に近ついたので去月二十六日吉田、大貫兩重役をはじめ各係長參列縣社溫泉神社佐波古神官により火入れ式を擧行したが愈よ竣功は今月中旬であると

# 歡喜の三重奏！
## 麥‖米‖晩秋繭
## 明朗、昨今の農村風景

お米は何せ四年振りの大豐作だ、いま出盛りの晩秋繭に綴つたお金が轉げ込む。ふくれ上つた懷ろを抱へて波打つ稻田に收穫の微笑みを浮べてゐるのが昨今に於ける農村の表情である

お米の大豐作と共に麥作も大當り、郡部の收穫豫想高は大麥が四萬三千九百二十五石、裸麥七千四石小麥一萬二千五十六石で郡別に見れば縣下第二位と云ふ好成績

一方晩秋繭はここ十日位は出廻らが蠶業取締平支所最近の調査による出廻り豫想高は〆て五萬貫で昨年に較べて約五分方の增加、之と云ふ遊蠶もないので郡內四千三百の養蠶家はみんな大喜び，取締所でも『今年は豐作ですよ』とこゝにも實りの秋の歡びがある

# 綿絲工組結成

綿絲配給統制實施により濱三郡下に於ても工業組合の結成が叫ばれてゐるので十二日午後一時からメリヤス製造及綿絲使用織物業者が平市會議事堂に開きこれが結成について打合せる

# 役馬利用講習會

八日福島市で開かれた事變に伴ふ農事協議會には石城畜產組合から三森技手も出席 自給肥料增產 事變に伴ふ農山漁村應急施設 馬匹補充並移轉制限 農業經營指導農場の指導督勵 事變に伴ふ郡市町村農會技術員設置助成規則施行に關する特別取扱の事項について協議の結果來る七、八の兩日平團體事務所に於て第一次役馬利用講習會を開くこととなつた（講習生）農業者一般（課目）調教 飼養管理 馬耕法 耕鞋製作（講師）帝國馬匹協會技師田村新八 地方農林技師河原田次雄 農林技手殿塚□雄

# 煙草小賣人座談會

水戶地方專賣局平出張所主催の平煙草配給所管內平市、飯野、夏井、高久、草野、神谷各村煙草小賣人の座談會は昨八日午前十時から市內谷口樓に開催、類賀出張所長を中心に八月五日改正された小賣人營業心得の趣旨徹底 愛國標語による販賣向上 國防獻金經過 局と小賣人との提携 その他に關し隔意無き懇談を遂げ大に營業人相互間の發展を圖る事を申し合せ午後一時散會したが出席二百餘名盛會であつた

# 夏秋繭豫想增加

去月二十日現在で當局が調べ上げた郡下の夏秋繭豫想收穫高は白、黃繭とも八萬一千五百九十貫で昨年に比し八分二厘の增、平市は二千四百十一貫でこれ亦六分一厘の增收

# 間違ひ一步前
## 出動勇士の空席に 繰上げ當選の不謹愼な祝宴計劃
## 其筋の訓戒で取止め

暴支膺懲の第一線に活躍中の我が將兵には市町村會議員の職に在つた地方の有志も少からず、之に因る異動に對しては次點者の繰り上げの途あるも當分其儘に留く處が多く、時局が生んだこの方面の影響として各所に小波紋を描いて居るが、之もその一つなる本郡赤井村では最近村議福田福一氏の敢然出動に因る補欠一名の繰り上げ當選に關し同氏の受令翌日某々らの策動により同氏に對して辭職書の提出を迫り更に村長に對して右に因る選擧會開催の急施村會招集方を請求する等、この勇士の首途に際して全く常軌を逸した行動に出で揚げ句同村田久彌一郎氏發起の下に村內同志に通知し、明十日午後一時より四時迄市內南町成田山別室に於て繰上げ當選者佐藤榮太郎氏の爲め會費一圓の祝賀會を開催すべく計劃中である事が其に時局を辨へざるも甚しい不見識の行動として之に對する非難攻擊囂々たるに至つた處から之の事早くも其筋の耳に入り昨八日平署特高係大宮部長が同村に出張前記田久氏に對して訓戒の上之を取り止めさせる事になり辛じて不祥事の發生を免れた

# 村上さん獻金

昭和人絹會社內村上愛太郎さんは金五十錢を國防費として福島聯隊區司令部へ

# 物價騰貴で已むなく 自動車賃二割値上げ
## 來る十五日から斷行に決定

頃來の物價騰貴に何れ大打擊を受けぬものは無い中にも殊に一般自動車業は

ガソリン一ガロン三十二錢が六十五錢に卽ち十割强 部分品四割高

の急激なる釣り上げに對し直に之を利用者に轉嫁することとならず加ふるに時局柄出動從業員の家族に對する支出等あり、當面の切り拔けに就て少からず苦慮中であつたが組合では到底この難局を打開するには不本意乍ら値上げの外無しと云ふ事になり來る十五日より約二割の値上げを斷行する事になつた。該値上げは他地に較べ遙かに低率である

# 入山今月行事

十日 於日立競技場 競技部 茨城縣選手權大會兼關東豫選
十七日 於神苑弓道場 弓道部 從業員弓道大會
廿四日 於職員クラブ 撞球部 平クラブ對抗戰
中旬 於入山コート 庭球部 四ツ倉セメント對抗戰
未定 於磐中球場 野球部 磐陽野球大會
未定 於神苑弓道場 弓道部 四ツ倉セメント對抗戰

とのことである

# 國民精神總動員强調
## 平外二ケ所で講演會

本縣民協力一致の國民精神總動員は實行委員會に於て愈よ實踐事項を決定、來月七日から同十一日迄を强調週間として全縣に亘る一大愛國運動が行はれる、來る十四日は平市に於て講演會を開く外植田、四倉の兩町に於てもこれに因んだ講演會を催し趣旨の强調をはかる豫定であると

### 市町村實施事項

一、市町村振興委員會に於て趣旨の徹底（市町村會終了後）振興委員會に於て趣旨の徹底を圖り市町村に於て實施事項等を決定し部落常會を通じ其の方法に依り周知徹底を爲す

一、部落常會に於て趣旨の徹底（市町村振興委員會後）部落民に趣旨を徹底し振興委員會に於て決定したる其の市町村の實施事項の徹底を圖り更に部落の事情に即する方法等決定實行に移す

一、各種團體の協力（あらゆる機會に於て）趣旨の徹底及各般實施に當り各種團體相互の協力を緊密にする方法を講ずること

一、時局に關する講話、懇談會の開催 隨時市町村民、部落民を集め又は凡ゆる會合の機會を利用し時局の推移戰況銃後の狀況等に付講話懇談を爲し常に市町村民の正確なる認識を促し堅忍持久の精神を堅持せしむるに努むること

一、ポスター、ビラの調整配布，ポスター、ビラ等は中央及縣に於て調整配布するも更に市町村獨自を以て實情に即し調製配布すること

# 破獄脫走事件後報
## 勿來迄貸切を註文 不審の『二人男』
## 搜査陣俄然色めく

平刑務支所の獨房を破つて脫走を企てた赤井村大倉（本籍神谷村）前科七犯鈴木伊助（三七）內郷村高坂同四犯草野儀一（三〇）兩名の行方については平署並に應援看守の必死の活動も空しく未だ逮捕に至らないが今九日に至り更に搜查線上に次のやうな新事實があがつた

事件發生の當夜、即ち七日夜十時半頃內郷村綴驛前薄葉自動車部を訪れたツメ襟服に學帽と云ふ一見學生風の男二人が勿來町迄貸切を三圓五十錢でやつてくれと云つたが種々の點で拒絕すると直にそのまま闇の中に消えてしまつた

と云ふのだが、その際は脫走事件のあつたことも未だ知れてゐないので同自動車部でも『何となく慌ててゐたやうだが、まさかと思つてそのままにしてしまつた』と云つてゐる、ツメ襟服の盜まれた事實もあり、人相、其他から推して前記破獄囚と目されてゐる

# 『檢擧近し』
## 彼等の足どり

（一部昨報）內郷村に現れた破獄囚は同村白水字川平坑夫塚橋守方から詰襟服二着と現金卅餘圓を盜んだ上逸早く着替へ鈴木の着てゐた青の獄衣は附近國寶白水阿彌陀堂前の銀杏の木の下に脫ぎ捨ててある、この外二軒からゴム靴、酒、サケ罐詰などを盜んだのも此奴らの仕業ではないかと見てゐる

更に內郷村からの足取りは依然判明せぬがさき高飛びした模樣もなく、平署では今明日中には必ず擧げると意氣込んでゐる（午後一時記）

# 鈴木捕はる
## 脫走の片割れ

平刑務支所脫走既決囚鈴木伊助（三七）草野儀一（三一）の兩名中鈴木は今九日茨城縣多賀郡地內に於て高萩署員が捕へた旨通知に接し平署菊地部長刑事は身柄引取りの爲同地に急行した

# 醉つて轢る

夏井村下大越字和田砂利採取人夫星野喜一（三五）は七日夜九時頃ほろ醉ひ機嫌で赤井村諏訪原地內の線路脇を自轉車を引いて步行中驀進して來た上り客車に轢かれて慘死した

# 無錢遊興二人男

三阪村差鹽農草野公榮（四二）同本間千代吉（五〇）の兩名は六日から三日間鎌田遊廓に流連・遊興費三十圓を請求されるや何と無一文、平署へ

# 病苦から死

川前村川前字五林地內山林に白骨死體あるを去る七日發見、小野新町署で檢視の結果神谷村上片寄字藤倉大泉文隆（三）と判明、病若で厭世自殺を遂げたもの

# お披露目

橘から千代丸、半玉光子の兩人が出現超滿點のサーヴヰスをする

# 入山自治委員改選

入山自治會委員の任期滿了による改選を來十七日午前五時より午後三時迄各區世話所で執行

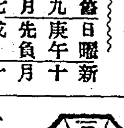

# 至急募集

一、少年工場員
小學卒業程度にして市內居住者、希望者來談あれ

磐城新聞社

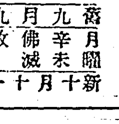

十日（小名濱測候所發表）
滿潮 前八、〇〇 後六、一〇
干潮 前一、一〇 後〇、三〇

十一日
滿潮 前九、一〇 後六、三五
干潮 前一、五〇 後一、〇〇



新十月十日 日曜 舊九月七日 庚午 先負 成 星宿

▲一白 內々のこん亂に辛勞あるべし外部にとがなし▲二黑 天恩多大にして希望成り財寶身に集る如し▲三碧 凡ては思案に能はず工風ろうさくは失費大なり▲四綠 幸福のかぎは自己の手に有りかひは努力次第▲五黃 ふところに入りし幸運は逃がさぬ用心かんようとす▲六白 自ら設けしあなにおちいるが如し起業轉宅旅行凶▲七赤 萬事思はしからぬ日普請轉作移轉等すべて凶▲八白 兎角出勤の出身をくぢかれ易し迷はぬが吉し▲九紫 はんもん苦勞を生じ易くぼうぎよに注ぐべき日



新十月十一日 月曜 舊九月九日 辛未 佛滅 收 張宿

▲一白 野心を起さず堅實一點張りにてす、めば安全▲二黑 諸事順調にすゝまんとする日熱心は成功のかぎ▲三碧 身の程を忘れず自重して徐ろに行けば無事▲四綠 地位にまんせずけんじやうにして人に接すればたすけあり▲五黃 他をせんぼうし不滿ながいしてあせり氣を生ずるは凶▲六白 步一步と勞の加はりて發展を遂ぐべき吉日▲七赤 しんてん力の盛なる日志想を堅固にすゝむが吉軽擧をつゝしまざれば心配事を生じ不快の日▲九紫 平たんの地を行くが如く順調に發展すべき吉日

諸判定應需 東京市本鄉區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館


# 住所錄（人名簿）
デリカ切拔き 二〇〇名、三〇〇名 五〇〇名、一千名、各種

# 帳簿
洋式ドンコ 一圓、一圓八十錢 二圓五十錢
最新式穴の傷まぬ 書く手間が要らぬ

魁文堂 電話313番

# 自動車料金値上に付謹告

自動車並に部分品及ガソリン暴騰に付無已來る本月十五日より二割內外の値上げを致しますから御諒承を願ひます。

一、ガソリン一ガロン 時價最低三十二錢なりしもの現在六十五錢
一、自動車部分品 四割內外の騰貴
以上

福島縣自動車協會 平支部

# よき記念
## 吹き込んで即座に聽ける 私の肉聲 完成‖

吹込料 10吋レコード 一枚 兩面 金三圓也
レコード盤は理研特許輕金屬
送別會、訣別の辭、送別の辭、軍歌、詩吟、家族座談
（本機特價提供）

平市二丁目 日東商會 電話四二八番

◎電話次第一枚にても出張吹込み致します。

# 齒科一般

平市田町（安齋醫院向）
齋藤醫院
東京齒科醫學士 齋藤賢三